



最近はやっている百日ぜきについて教えてください。



百日ぜきは百日ぜき菌という細菌による呼吸

器感染症です。7～10日の潜伏期の後、1～2週間のただの風邪症状のカタル期（前駆期）から、次第にせきが出て痙咳（けいがい）期となり、激しいせきが2～3週間続きます。



発熱は少なく、その後回復する場合が多いのですが、小児は重症化しやすく後遺症が残ったり、亡くなる場合もあり、定期予防接種は重要です。比較的症状が軽いといわれる大人も、治療に有効な抗生物質に耐性ができていくといわれ、症状が強く長引く場合もあるので注意

です。飛沫（ひまつ）や接触による感染力は強く、特にカタル期に最も感染しやすくなります。もちろん早めの治療が望ましいですが、激しいせきなどの特徴的な症状がないカタル期は、疑って検査しないとなかなか分かりません。とにかくマスクなどでの感染対策の継続が必要で、もらわない、もらっても他に渡さないように気を付けたいものです。最近になり細菌の流行ですが、なんとかせき止めたいですね。

朝倉病院
理事長／院長
田辺 裕久さん